

Izuka Kasumi

金田中2年 井塚花純さん



明日輝くために

—— 主な内容 ——

**金** 田中学校を代表する伝統行事、合唱コンクール。当初わたしのクラスは先生にしかられてばかりでしたが、朝や放課後の練習を重ねるにつれ上達し、ほぼ完成の状態にまで仕上げました。本番は緊張したものの、これまでの最高の合唱が披露できました。しかし結果は銀賞。悔しかったのですが、憧れの3年生の合唱を振り返れば当然だったと思います。これが同じ中学校の先輩なのか？と疑いたくなるくらい歌も表情も完璧だった3年生の合唱。わたしは心から感動し、周囲では涙を流している人もいました。人に感動を与える…そのためには自分自身が感動する心を持っていないではダメだと思います。生半可な気持ちでは到底できません。3年生の合唱がこんなにも心に響いたのは、先輩たちが日々努力し、一生懸命取り組んできた成果にほかなりません。史上初の全クラス金賞を飾った今年の3年生に、どうしたら近づけるでしょうか、どうすれば超えられるでしょうか、ダメかもしれないけど目指したいです。3年生への「憧れ」を「目標」に変えて。全クラス金賞を目指す来年への道のりは、すでに始まっています。そして、この合唱コンクールという素晴らしい伝統を受け継ぎ、守り、後輩たちにつなげていきたいと思っています。

—— 主な内容 ——

**年** を重ねて成長すると、今までできなかったことができるようになるけど、その分、責任も増える。母が僕にそのことを気付かせてくれたのは9歳の誕生日のときでした。以来「責任とは何か」という疑問を持っていましたが「ただ生きるのではなく、一生懸命に生きなさい」という母の言葉を聞いて僕は気づきました。一生懸命に生きるために必要なものが「責任」なのだ。「責任」は僕たちがより人間らしく、命を満喫するためになくてはならないものの一つです。その重みは、決して僕たちの背を曲げる重みではなく、僕たちが地に足をつけた生き方を送るための重しとなるものです。僕たちの体は重力を重いと感ぜません。「責任」とはこの重力のように、僕たちを僕たちがいるべき場所へ戻してくれるものだと思います。責任感がある人は皆に信頼されます。僕は責任感がある人はいつもしっかり、確実に生きているから信頼されるのだと思います。簡単ではありませんが、僕はそういう人になりたいです。今年の誕生日に「おめでとう」と言ってくれたすべての人をがっかりさせないためにも、責任と共に一生懸命生きたいと思っています。そして、来年の誕生日、心の底からこう言いたいです。「年をとるってうれしいなあ」と。

毎年迎える誕生日の喜び



Eto Yuuma

赤池中2年 江藤悠馬さん

Kikuchi Takanosuke

方城中2年 菊池賢之介さん



僕の心に残る大切な言葉

—— 主な内容 ——

**人** の命はあやつることができない。だから人が死んでも生き返らせることができない」これは僕が祖父から言われた言葉です。この言葉を聞いて「当たり前だ」と思った人もいるでしょう。しかし、そんな当たり前のことが理解されない悲劇が繰り返されています。悲劇—それは戦争です。過去の大戦は多くの命を奪い、悲しみと怒りを与え、現在も世界のどこかで争いが絶えません。もう一つの悲劇は飢餓と病気です。5歳前に亡くなる子は年間970万人にのぼり、3秒に1人が戦争や飢餓で亡くなっています。さらに日本では自ら命を絶つ自殺も増えています。命の重さと尊さを世界中の人がもう一度よく考え、悪い心を人を思いやる心へと変えていければ、悲劇は少しずつ無くなっていくのではないのでしょうか。祖父が僕を大事にしてくれたように、ほかの人に優しくすること。そして命を大切にすること。これが、祖父が僕に残してくれたものだと思います。だから僕は祖父の思いに応えられる人になりたいです。そうして人を思いやる気持ちが伝わっていけば、誰もが笑って暮らせる世界になっていくのだと信じています。最後に、こんなすてきな言葉を僕にくれた大好きな祖父にお礼を言いたいと思います。「おじいちゃん、ありがとう」。

第3回  
わたしの主張大会  
2008



田川地区大会・福岡県大会・全国大会へと各大会の審査を経てつながっていく「わたしの主張大会」。市場・金田・弁城・伊方の4小学校と赤池・金田・方城の3中学校の代表者が豊かな表現力で主張しました。なお、上野小代表として発表予定だった竹尾優衣さんが、当日体調不良のため残念ながら欠場となっています。※各発表者の文章は原文のままではなく、主張の主な内容として要約して掲載していますのでご了承ください。

# 想いよ、届け。

第3回 福智町わたしの主張大会  
主催 福智町青少年育成町民会議



Noda Seika



Shimura Ayano



Hashimoto Kouta



Nishimura Kanato



Kikuchi Takanosuke



Eto Yuuma



Izuka Kasumi